

聞いてごしない

Part 14

最初から唐突で申し訳ないのですが、組織と言う物は活動期間が長いほど当初の意図と違った流れを起し、元の流れへ引き戻そうとする力と新たに革新したいとする力が働くものですが、われわれ中央会も例外ではないようです。

昨年、執行部が知恵をしぼり会全体を巻き込んで検討した選挙に関する会としての態度、そして今、これからのトライアスロンボランティアをどう進めていくのか、などなど中央会26年間の歴史を語る方がいるわけもなく、選択権は当然現会員に委ねられるわけですが、今までの経過を知らずして、決定する事は後に禍根を残す物です。

過去、卒会された先輩方を思い出すと実に思考の角度が広範囲で術中戦略に優れ、現役当時はただわがままで怖いだけの方だと認識していた方が実は一番会のことを思っていたのだと気づき、自らを恥じるのは遅すぎるとは思いませんか。今、卒会を数年後に控えると、先輩方に「中央会に借りをかえせ」と役員に任命されたこと、ほとんど進歩していない自分に気づき、新入会員に「中央会とは？」と説明をくわえる機会があると、いつの間にか適当にしゃべれず、入会した意義から話し出すのは、おこがましいのでしょうか。

「近年の不況と会の魅力」という新入会員の減少の引き金になっている要因は、どの経済団体においても課題となっているわけですが、どうもこの辺を増強政策と共に、熟慮するべきようです。

どうもこの原稿は現会員よりハンサムを見ていただいているOBの皆さんと各関係の方々を読んで頂きたいのやもしれません。

中央会会員は情熱となげなしの知恵を搾り、日夜、家庭と仕事と中央会、そして少々のレジャーを励んでおります。

どうか、われわれに身近の青年をお貸し下さい。「鍛えてさしあげます。」卒会されて遠慮されるのは淋しく、強きでいえば「後輩に失礼ではありませぬか。」

この名案にご意見いただければ幸いです。

(ご隠居)

What's IT?(第8回)

今回はちょっと小休止と言う事で、雑感を少々。先日地方誌に「ブッシュ・ドクトリン」という見出しの記事が載っていました。政権発足から2ヶ月余り、そろそろ新政権の新味を出したいと言う反動からか、「ユニラテラリズム」(一方的外交)を特徴とする外交政策を打ち出そうとしているようです。ユニラテラリズムを平たく言うと、「米国は国際社会の単なる一員ではなく、世界を支配する国である。世界の現実を形成するのは米国だけだからだ。他国にお伺いを立てるな。命令せよ。」と言う事だそうです。はたして株価が暴落している国のたわごとでしょうか？

80年代、バブルに湧く日本企業に押され気味だった米国企業はこぞってリストラクチャリング、リエンジニアリングを断行し、90年代に黒船の如く再来しました。米国企業がリエンジニアリングに成功したのは言うまでもなく徹底したIT化を行ったからです。インターネット関連技術のほとんどは、米国企業の特許があります。そう言えば、ビジネスモデルに特許性を生ませたのも、ITです。これらほとんど米国企業の独占状態です。アメリカは国家戦略としてインターネットを位置付けてきました。(もともと国防上の理由で研究開発された技術ですね。)第2のボックスアメリカナと言う人もいます。

さて、「日本に超低金利を求め、ビッグバンで日本からの対米資金一極集中の戦略が始まった。心しておかなければならないのは、今回のアメリカ株の暴落はアメリカの国益にとって最高であるという事実。日本から引いた資金はアメリカの負債。この負債で繁栄を築き、将来のためのITインフラを構築し終わったところで、この暴落。これで対日負債を棒引きすることが出来る。おまけに米政府は日本資金が形を変えたキャピタルゲイン税をふんだんに持っており、そのうちほんの1.6兆ドル(180兆円)ほど国民に払い戻す。なんと優雅なことか。」と言う論評があります。冒頭の「ブッシュ・ドクトリン」と合わせると何か見えてきませんか？日本のIT国家戦略は今動き始めたばかりです。

この連載も何とか後2回となりました。がんばります！！

4月レクリエーション例会案内

とき 平成13年4月15日(日)AM9:00~PM4:00
ところ 大山町農村環境改善センタートレーニングセンター(農村運動広場・農業者トレーニングセンター)

内容 グランドゴルフ・ソフトバレー
担当 総務・実学・newカマーズ委員会
※雨天時は農業者トレーニングセンター(体育館)で行います。
※天候に関わらず上履き(シューズ)をご用意下さい。

4月役員会報告

4月定例役員会が平成13年4月2日(月)、米子食品会館に於て開催された。当日の主な議題は、次の通りです。
(1) 4月例会、5月例会(臨時総会)開催の件
(2) 収支見込みの件
(3) その他
※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

編集後記

最近の株価最安値更新、失業者の増大、政治不信 いったいどうなっているのかだれも分からない気がしてならない 我々にとって、待ちに待った米子→ソウルの定期航空路の開設は山陰が、環日本海の核となり、観光、ビジネスなど各方面の相乗効果を期待したい。
青年中央会もガンパロー！！

コピーをして名簿にお貼り下さい

(newカマーズ)



もり わき てつ お
森 脇 哲 雄 B型
大幸株式会社 代表取締役社長
業務用冷凍食材卸売業
〒684-0034 境港市昭和町12-41
TEL 42-6221 FAX 44-2474
(KT) 090-1682-5736 (EM) t-moriwaki@daiko-web.com
H13.03入会
(推薦者) 岩田(博) 自宅 境港市上道町1989-7
浜田(一) 〒684-0033 S44.2.13 TEL 44-0715

(コメント) この度は青年中央会へ入会させて頂きありがとうございます。婿養子としてこちらで生活する様になり5年目を向かえます。地元の風土や生活習慣にもようやく慣れてきましたのでこれから少しずつ自分のポジションを確立してゆきたいと思っております。中央会での活動を通じてさまざまな経験をさせて頂いたことがその一番の近道だと考えておりますので御指導の程よろしくお願ひ致します。

(newカマーズ)



て し ま たけ し
手 島 武 司 A型
衛明治牛乳 境港販売所 専務取締役
乳類販売業
〒684-0031 境港市湊町164
TEL 42-3929 FAX 42-3376
(KT) 090-2000-6146 (EM) courier@apionet.or.jp
H13.03入会
(推薦者) 小椋(博) 自宅 米子市米原1丁目7-16
足立(徹) 〒683-0804 S41.4.17

(コメント) 青年中央会に入会させて頂き、ありがとうございます。会の中で私に何が出来るか、何を学ぶかを考えながら参加させて頂いております。今後ともよろしくお願ひいたします。最後に我が社の目的を紹介させていただきます。我が社の目的は立派な牛乳屋になること、立派な牛乳屋とは、挨拶、礼儀、親孝行が出来、人に尽くし感謝出来る人、そして立派な牛乳屋になろうと努力し、そんな集団になろうと団結することである。

「英知を養う」「フィロソフィア」
2001.4 No.162
Handsomeness
発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 土井一朗 編集責任者 浜 義徳 印刷所 東京印刷社

次年度副会長決定!

熱き情熱で岩田丸をサポート

平成13年3月16日(金) ホテルサンルート米子で行われた臨時総会において、景副会長の議事進行のもと、岩田次年度会長より推薦のあった浜田一哉会員、武海章会員、前田真会員、萬田寿夫会員、岡本康朋会員5名の副会長の候補が満場一致の拍手で承認された。



写真左より 武海 章 (H6.7月入会) 24期・26期理事
前田 真 (H9.3月入会) 25期理事
萬田寿夫 (H8.7月入会) 25期理事・26期県理事
岡本康朋 (H8.7月入会) 25期理事
浜田一哉 (H4.1月入会) 21期理事・24期県理事・25期副会長・26期県監事

3月例会報告

3月16日ホテルサンルート米子において21世紀地球委員会担当による3月例会が開催された。

講演テーマ：命輝く生涯学習
講師：淀江中央公民館 館長 安江禎晃氏

安江禎晃氏は元学校教師という経歴をもっておられる事もあり主に知識についての講演になると思われたが実は非常に興味深いものであった。

安江氏が掲げる生涯学習とは単なる知識や教養の積み重ねではなく、まず第1に「健康である事」それは心と体の両面においてである。その為に「3かき運動」という身体を動かし「汗をかく」、頭脳を使い「字をかく」、適度な心理的緊張、精神的緩急をつける意味の「恥じをかく」必要があり、その実践を進められた。

第2に「知識・知恵づくり」である。これは取り入れた知識、教養を役立てられる知恵としなくてはならないという事で、これは土井会長が掲げる「知恵者たれ」という言葉に通ずるものである。

そして「生きがいづくり」「地域づくり」というものをトータルで学習、実践する事がうまいある生涯学習につながると説かれた。

ではどうすれば生きがいを感じられるのか？それは自身の目標を達成する事、これは自己満足にしかならず、喜びも小さい。その目標達成や成功を土台とし、地域社会や他人、未来ある子供達に対しそれを還元する時に感じられる社会的有役感、社会的有要感にまで引き上げられたもの、それが地域づくりに貢献する事となり、ひいてはそれがうまいある心豊かなくらしに必要な生きがいとなると教えられた。

講演終了後景副会長より謝辞があり、今月の例会は閉会となった。



OB交流ゴルフコンパ

好天のもと開催

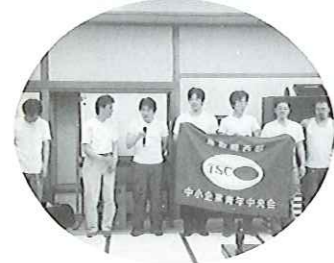


去る3月18日(日)に米子ゴルフ場にて「OB・現役交流会(OB・現役対抗ゴルフ大会)」が行われた。天気は晴れ、気温8度と3月中旬としては絶好のコンディションの下、現役会員42名、OB会員23名、総勢65名で日頃のゴルフの腕を競い合った。開会式では初めに3月7日に逝去された森脇牧夫OBに黙祷を捧げた。そして土井会長、岡田端OB会長による開会挨拶、北野副会長によるルール説明、土井会長と岡田端OB会長の両者綺麗に決まった始球式が行われた後、各組スタートして行った。ボールだけでなく様々な物が飛び交い、ベストショットを連発する人から珍プレーに徹する人まで非常に楽しいゴルフ大会となった。

今年は優勝者が和田秋男OB、ベスグロが宮崎勝行OB、団体戦(現役、OBの各上位10人のスコア集計)でもOBの大差の勝利といわゆるOBの3冠、完全勝利となった。何事も経験豊かなOBとしてはやはり、ここの一番での底力はまだまだ現役には負けないと言った所であろうか。ゴルフ大会の後には、ホールサムインかいけに場所を移して、懇親会&表彰式が盛大に行われた。奥森県会長の挨拶の後、OB紹介、石黒豊OBの挨拶があり、表彰式へと移って行った。そして歓談後、newカマーズ委員会による新入会員挨拶とアトラクションが行われた。それぞれに趣向が凝らしてあり、新入会員挨拶は外国軍隊の新兵訓練に見られるランニングシーン風に、本



当の珍プレーも飛び出した神経衰弱ゲームで会場を大いに賑わせた。最後に岩田慎介次年度会長による中締めにて2時間に渡る懇親会&表彰式が終了した。私にとってOB・現役交流会は2回目であるが、いずれも企画・準備する側に回った。大変ではあるが、終わった後の達成感は誰よりも強く感じる。普段なかなかお会いする機会が無いOBと親睦・交流を深める事が出来るこの会は、これからも継続して行きたい行事の一つである。でもその前にせめて楽しめるくらいに自分のゴルフの腕を磨いておかななくては。



青経連合同研修会開催「広域合併を語る会～5年後この街はどうなるの？」

3月14日境港シンフォニーガーデンにおいて今年度の合同研修会がおこなわれた。テーマは昨年に引き続き広域合併についてで最初にPHP総研の地域政策研究部の荒田英知主任研究員の基調講演をうかがった。2006年には日本の人口は頭打ちになり、地方交付金による地域格差をなくすという右肩上がりの経済に裏付けられた政策の見直しは必至である。そこで政府は昨年「合併特例法」を施行し平成17年3月をめどに交付金据え置きや補助金交付といった優遇策を打ち出し広域合併を推進している。しかし、議員や公務員の削減による経費削減などの行革の部分ばかり先行して捉えがちであるが、それに加え、生活圏、スケールメリットなど連綿と醸成された地域特性を十分考慮して合併問題を議論する事が必要である、との内容であった。引き続き各団体代表の質疑に荒田氏と県総務部市町村振興課大場尚志氏が答える形でのパネルディスカッション「5年後この街はどうなるの？」に入った。



当会からは政治・地域ビジョン委員会を代表し石指会員が、合併エリアの諸問題として現在のパターン案として米子市、境港市の合併エリアで良いのか、今後悪化していく地方交付税、国庫補助金はようになっていくのか質疑した。荒田氏は、合併は結婚と同じお互いの生活圏を理解し合うことが大切であると述べられた。続いて財政面では、大場氏が、削減傾向であるが「合併特例法」の優遇策をふまえたうえで徹底的な効率化が必要であると述べられた。まとめとして荒田氏は「合併問題は地元経済人が提言し行政と住民を巻き込んで推進するケースが多いが、自分の街はどうなりたいのか。合併先とどういうビジョンを描きたいかを十分話し合ってほしい。地元のよさを再発見し合併してどういう形で発信してゆくことが出来るかきちんと提示できれば住民の理解も得やすいのではないか。」と結ばれた。

3月委員会報告

newカマーズ委員会

平成13年3月8日(木) 於:米子食品会館 出席者/19名 (小林幹事より)

「英知」・「友愛」・「団結」の3本柱は、言い換えてみれば次の4つに集約されるものである。(以下、要約)
1. 礼儀 年功序列は基より、敬うべきはその人の担う役職である。
2. 責任 本職と同様の責任なくして、信用は得られない。
3. 思考 上質な段取りと手配に基づいた行動である。
4. 情熱 損得を抜きにした、純粋なボランティア精神である。
「最後に、本会の活動は、己の理念でポジティブに捉えることによって、この上なく楽しく、有意義なものになると私は確信する。」

中島委員長より、ニューカマーズ委員会1年間の集大成として、新入会員の研修を行うのに必要な素材がたくさんあるにもかかわらず、それらがいかされていない。個々の素材は優れたものであるが、研修内容全体がテーマに沿った整理がなされておらず、資料の山積み状態である。この度ニューカマーズ委員会は、特にビジュアルに訴える記念事業のビデオに替目し、未公開映像を含めてカテゴリ分けを行い、1本の新入会員オリエンテーションビデオを編集することを決定した。

- 具体的には
組 織…西部青年中央会—役員会例会/委員会/トピックス
鳥取県青年中央会
鳥取県中小企業団体中央会—全国大会
交 流 会…OB交流会・リレーション例会・海外研修
ボランティア…トライアスロン・墓石ボランティア・オークション
(募金活動)
歩 み…発会のいきさつ・歴代会長・FV分科会の提言・会員数の推移
イ ベ ント…記念事業・夢みなと博・どうする山陰
親 睦 会…野球部・ゴルフ部・サッカー部・応援指導部



情報メディア委員会

平成13年3月6日(火) 於:米子葬仙 出席者/11名

今回は、内部講師として桶村副委員長に、社内イントラネット導入について話をうかがった。社内ネットワークの大きな特徴として、営業管理システムと文書管理システムがあり、「営業管理システム」とは、営業各人の行動・結果を管理リアルタイムで確認し共有できるシステムである。第2に文書管理システムとは、社内文書の管理として各店で作成、使用している書式・マニュアルを一括管理することにより、作成の無駄を省き、全体のレベルの統一を図るものである。さらに、社内専用のホームページを開発し、iモードからも入れるようになっており、このことによりデータ管理が効率よく組めるようになり、店舗への問い合わせをすることなく、現場での予約が可能になりスムーズな予約が出来る点である。社内ネットワークの重要性を再認識するとともに感銘を受けた。

21地球委員会

平成13年3月7日(水) 於:米子食品会館 出席者/12名

今回の委員会は、3月担当例会の打ち合わせを軸に行われた。各自の役割分担や当日のタイムスケジュールを確認した。最後に、6月の委員会報告発表に向け、残りわずかな委員会をより実のあるものにしていくことを出席者全員で確認した。

実学委員会

平成13年3月19日(月) 於:日本海情報ビジネス専門学校 出席者/7名

長谷川一成氏(有)はせがわ事務機器店専務取締役)を講師にお迎えし、「青年中央会協業サイト設立の目的と今後の活用について」と題して、ご講演いただいた。「西部青中協業サイト (<http://www.hopenet.co.jp/org/tsc>)」は当会会員相互の連携を目的として、情報メディア委員会の尽力により設立された協業サイトであり、「情報交流の場、技術・製品・資材の調達および共同開発の場、ビジネスチャンス・新ビジネス分野創造の場」といった機能を有している。実際にサイトを覗いてみると、
■情報交流会場:会員同志の情報交換のための掲示板
■協業のページ:フリマオークション形式による協業のページ
■会員自己PR:会員自己PRの検索データベース
という構成で成り立っている。率直な感想を述べれば、「まだ立ち上がったばかりで未発達の感はあるが、今後の一層の発展に期待する」といったところか。既存の当会ホームページ (<http://www.sanmedia.or.jp/tsc>) を発信型のサイトとするならば、「西部青中協業サイト」は参加型のサイトである。会員のアイデア次第で用途も無限に広がることであろう。協業サイトを生かすも殺すも会員次第。皆様方の積極的なご参加により、協業サイトが千客万来となる日を願って止まない。

志委員会

平成13年3月12日(月) 於:ホールサムイン皆生 出席者/11名

委員会活動は6月発表会に關しての打ち合わせを行った。5月委員会活動をまとめとすべく、中海CATVへの我々志委員会が行って来たことを画像を通してどう表現するのか、についてシナリオに關して討議が繰返された。方向として、歴史、政治経済、教育を柱とした志を活動で学んで来た事を打ち出してはどうか。そして視聴者にも我々がやって来たことを一緒に考えてもらえる様な、放送スタイルを考えて行きたいと構成を打ち立てた。役割分担を決め次回委員会まである程度の骨子を作成し引き続き討議を繰り返す予定。

政治・地域ビジョン委員会

平成13年3月8日(木) 於:ホールサムイン皆生 出席者/11名

流通部門担当(三嶋・志田・小塚)
テーマ 米子—ソウル便定期航空路開設の現状と課題
1. 米子空港ビル施設改造等
米子空港ビルは、基本的に設備の増築はしなくて内部改造のみで国際線の入国検査場・到着ロビー・出発ロビー・チケットロビー・出国検査場等を新設し対応して行く。(CIQ施設の整備)
2. 他のローカル空港との比較(運賃・便数・利便性)
A. 米子—ソウル便の経緯
日韓航空交渉—政府間の航空当局間協議2000/12/12開催
韓国側の航空会社(K・A)が手を上げれば支障なく開設出来る。これまでは、新規地点の追加=開設だった。
開設予定地 米子4月(A航空)・宮崎5月(A航空)
秋田6月(K航空)・出雲未定。
B. 他のローカル空港視察結果
広島空港—CIQ施設(すり抜け防止窓・ブラックライト・表示(日本人・外国人)・出国待機室(逃げたり死んだりしない)の設置)がしてある。
高松空港—アジア航空視察
週3便で米子空港と変わらず。開設当初はすごく厳しい状況で、ダイヤの変更を余儀無くされた。
3. 旅行業者の対応
A. これまでの米子空港チャーター便があったためか、営業先でのお客様の声は *せっかくの定期便なのでおいに利用したい。
*今更定期便もないじゃないか。
おおまかに2つの意見に分かれるが、これまでのチャーター便の多から韓国に対する魅力は薄くなっているのではないかと感じた。
B. 近隣の岡山空港は現在韓国定期便があり、ソウル激安ツアーも出まわっているため、今後の米子定期便の利用客が確保できるか心配である。

今後定期便の旅行業者の対応は、
*航空会社に協力を頂き韓国中心のお手頃パックツアーを企画すること。
*ソウル以遠の、中国・アメリカ・ヨーロッパ等へ向けての魅力あるツアー企画。
*日韓親善協会等の各種団体への斡旋。
*韓国旅行者との提携による、韓国からの顧客の集客。
以上のような会議進行で、一応終了しましたが、ソウルの空港が金浦(キムポ)ではなく、新国際空港(仁川(インチョン))になりそこから乗り換えて全世界の都市につながるが、経由してのわずらわしさと、旅費等が格安ならば利用度が多いだろうが、高ければ直接世界都市に行ける空港から行ってしまわないかという問題は隠せないところであろう。それと、米子空港中心で交通アクセス・宿泊施設の充実等々も今以上に充実させる様にならないと思われる。

広報委員会

平成13年3月5日(月) 於:大連 出席者/13名

○ハンサム4月号、企画、紙面割り。
○6月発表会の打合せ。

総務委員会

平成13年3月6日(火) 於:ホールサムイン皆生 出席者/14名

◆5月担当例会打合せ
◆6月役員担当例会打合せ
この後、OB交流会、レクリエーション例会の担当と二手に分かれて話し合いを行った。
◆OB交流会 3月18日に向けての最終打ち合わせ。